

# 植民地と環境保護

## —100年前の朝鮮半島の森林植生図—

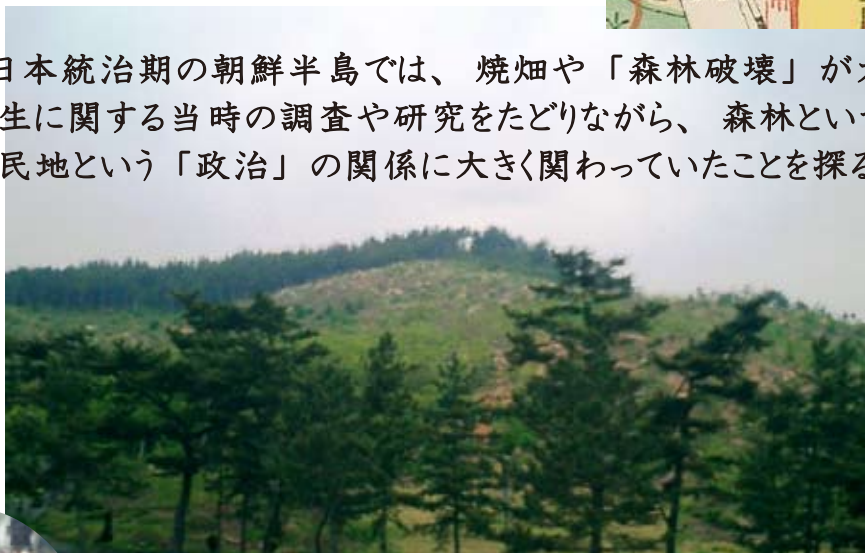


日時：2011年6月11日(土)  
10:30～12:00

スピーカー：米家 泰作先生  
京都大学大学院文学研究科・准教授

場所：京都大学総合博物館・ミュージアム

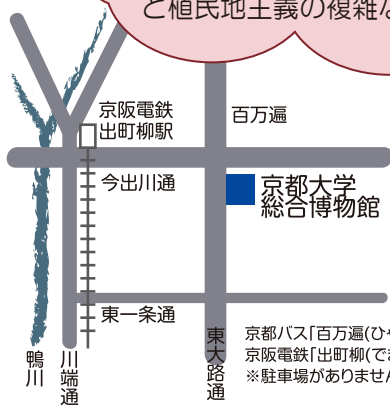
日本統治期の朝鮮半島では、焼畑や「森林破壊」が大きな問題として浮上した。植生に関する当時の調査や研究をたどりながら、森林という「自然」が、宗主国と植民地という「政治」の関係に大きく関わっていたことを探る。



100年前、日本の植民地であった朝鮮半島には「ハゲ山」が広がっていました。その荒々しい光景は、日本人の間で半島の状況を示す政治的なシンボルとなります。当時の植生図を実際に閲覧しながら、環境保護と植民地主義の複雑な関係を読み解きます。



京都大学総合ネットワーク



**お申し込み**：申込は不要です。直接博物館へお越しください。  
**対象**：小学生高学年以上(小学生の場合には保護者同伴)  
**参加費**：無料です。ただし、博物館への入館料は必要です。  
一般400円/大学生・高校生300円/中学生・小学生200円  
※70才以上の方、身体障害者の方は入館無料です。  
**問い合わせ先**：〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学総合博物館 TEL 075-753-3272  
ホームページ <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp>

京都市バス「百万遍(ひやくまんべん)」下車徒歩約1分  
京阪電鉄「出町柳(でまちやなぎ)」駅下車徒歩約15分  
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。